



三 復興狀況

臺灣總督府並新竹台中西州ニ於テハ夫々復興委員會ヲ組織シ復興ニ關スル百般ノ具體策考究並ニ實行ニ着手セリ其ノ狀況左ノ如シ

(1) 台湾總督府内ニ臨時設置セラレアル震災

救護事務所ニ於テハ四月二十六日午後一

時ヨリ是例幹事會ヲ開催分散的ナル應急

救護ハ一段落ヲ告ケ漸次集團的救護ニ移

リ復興氣運ニ向ヒソアルヲ以テ罹災民

ノ自力更生ヲ促進スル爲總務長官ヲ委員

長ニ府内各局長及州村審議軍事務官ヲ委

員ニ各課長ヲ幹事トスル臨時復興委員會

ヲ設置シ

(10) 新 有 配 並 自 食 4 3 2 1  
 竹 般 處 二 家 力 糧 教 罹 ス 罹 公 民  
 臺 般 置 二 屋 二 二 化 災 災 學 心  
 中 中 具 街 家 依 補 團 民 民 校 安  
 ノ 具 區 屋 二 二 體 他 二 切 體 二 對 及 定  
 ノ 体 整 造 二 二 其 他 二 二 對 二 對 可 計  
 西 策 街 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 方  
 州 考 區 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 法  
 二 究 整 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 ト  
 於 不 理 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 シ  
 手 入 方 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 災  
 ハ 申 法 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 害  
 夫 合 等 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 地  
 々 々 復 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 ヲ  
 州 興 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 對  
 知 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 ス  
 事 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 ル  
 ヲ 委 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二  
 委 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二 二

四 陸海軍側ノ行動

(一) 陸軍側

員長ニ内務警務西部長ヲ副委員長トスル  
 復興委員會ヲ組織シ庶務部 救護部 衛  
 生部 警備部 建築復興部 物資及金融  
 部 産業部ノ八部門ヲ設ケ復興方策ヲ調  
 査研究スルコトニ決定セリ

交通ノ關係上救護ノ最モ遅レタル大湖及  
 卓蘭ニ設置シアリタル軍校護班ハ地方医  
 療機關概テ整ヒタルヲ以テ豫定ノ通りニ  
 十七日午右撤退飯還セシメタリ

(二) 海軍側

馬公要港部ヨリ派遣セル第三驅逐隊島  
 嶼又風ハ災害地ノ初療概テ普及シ又心

ノ動搖ヲ畧々安定セルヲ以テ二十五日  
 夜震災地發飯投セリ  
 鳳山海軍無線電信所ヨリ派遣セラレ大湖及苗栗  
 ニアリテ通信連絡ニ任シタル山崎少佐以下五  
 名八十八日午前十時苗栗發飯還セリ  
 臺中州下神岡ニ殘置シタル第十六駆逐隊  
 海軍救護班軍医以下六名ハ其後新庄子  
 ニ移転救護ニ任シ居タルカ二十七日午  
 后一時撤退飯艦セリ又同隊ヨリ新竹ニ  
 派遣シタル通信隊モ二十八日午后  
 一時撤退シ同隊駆逐艦朝顔ハ二十五日  
 夜第三駆逐隊ト共ニ馬公ニ飯投セリ

五 治安ノ状況

災害地一般ノ民心ハ概テ平穩ニ取リ目下特ニ憂慮スヘキ事象ナキモ生活不安其他ニ基  
因シ窃盗等ノ犯罪新增ノ傾向アルヲ以テ警  
察当局ニ於テ嚴ニ警戒中ナリ

六 憲兵ノ配置

災害地ノ民心安定ニ伴ヒ台北分隊ヨリ新竹  
州下ニ派遣中ナリシ憲兵ハ四月二十七日苗  
粟ニ下士官一兵一ヲ残置シタル他之ヲ返還  
セシメ主トシテ軍救護班引揚後ノ情報蒐集  
ニ任セシメシマシアリ

然シテ此等殘置憲兵ノ状況特別ノ変化ナキ

限リ三日中ニ撤退セシムル豫定ナリ

七 其他参考事項

五

(一)

天皇陛下ニ於カセラレテハ今次ノ震災ヲ  
 深ク御軫念遊ハサレ四月ニ十七日基隆入  
 港ノ便船ニテ入江侍従ヲ御差遣アラセラ  
 レタルカ同侍従ハ同日午後三時三十分ヨ  
 リ總督府正六ニ於テ中川総督ニ對シ聖旨  
 並ニ御内帑金御下賜ノ傳達ヲナシタリ  
 尚同侍従ハ二十八日ヨリ三十日迄災害  
 地ヲ巡視シ五月四日基隆發離台ノ豫定  
 ナリ。

(二)

国籍 米國  
 住所 東京

フオツクス・レーヴィー・トーン・ニスト

東京支社員 ビー・パウエル

右ハ今田中部臺灣ニ於ケル震災地撮影(若)

勅寫真ノ外又同社員山田豊陽(録音技師)ヲ伴  
 上四月二十五日基隆入港便船ニテ來臺督府  
 当局諒解ノ下ニ四月二十六日台中州下ノ  
 被害狀況並ニ街庄役場校護班ノ治療狀況  
 并ニ撮影ニ懸問品トシテ「ビスケツト」  
 ヲ提出四月二十七日基隆發便船ニテ飯京  
 終リ

發送先

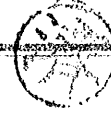
憲兵司令官 關憲司 朝憲司 内地各隊長  
 軍司令官 坪備隊司令官 西要塞司令官  
 馬公要港部司令官 海軍武官 爲隊下  
 總督 高法檢察官長



6960

R36

供覽



臺海第一二號ノ三五ノ二

昭和十年五月七日



第一課長

局員

海軍次官殿

臺灣地震被害調査ノ件送付

(總督府警務局調)

發送先 馬婁

海軍省

軍令部

佐鎮

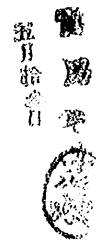


海

軍

(花附納)

酒井臺北在勤海軍武官



軍務局  
10.5.13

(終)

(9.1 300.)

寫

地震被害總表 四月廿五日現在

州區名別	震害未			住			家
	總人口	死亡	重傷輕傷	全壞	大破	半壞	
新州	...	...	...	...	...	...	...
臺中州	...	...	...	...	...	...	...
合計	...	...	...	...	...	...	...
備考	①印公處... 數... 傷... 死... 家...						

死亡者總表

四月三十日現在

州 區 別	新 竹 州		台 中 州		計
	男	女	男	女	
内地人	2	1	3	2	5
本島人	2	1	2	2	5
外國人	4	4	1	2	11
計	8	6	6	6	14
計	10	8	9	8	18
計	18	14	15	14	32

備考

×印ハ蕃人ヲ示ス  
外國人ハ全部中華民國人ナリ

負傷者總表

四月辛巳正午現在

計	中州	新州	名		州別	區
			男	女		
計	計	計	内地人		内地人	重傷
			男	女		
計	計	計	外國人		外國人	傷
			男	女		
計	計	計	計		計	輕傷
			男	女		
計	計	計	計		計	傷
			男	女		
計	計	計	計		計	合計
			男	女		

佛考×印ハ蕃人。田印ハ重傷中死亡シタル者ノ數ヲ再掲シ

タルモニシテ死亡數中ニ含マズ

外國人ハ全部中華民國人ナリ

罹災住家總表

四日正午現在

州區	全	壞	半	壞	大	破	小	破
新州	...	...	...	...	...	...	...	...
第州	...	...	...	...	...	...	...	...
計	...	...	...	...	...	...	...	...

備考

外國人ハ全部中華國人ナリ  
 X印ハ蕃人ヲ示ス

原 圖

罹災非住家總表

四十年日正現在

(單位棟)

計	新州	中州	州別			
			全	壞半	壞大	破
一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇

備考

外國人、全部中華民國人ナリ

官吏正衛		導		訓		巡		權		官公吏等死傷
女	男	女	男	女	男	女	男	別		
傷	死	傷	死	傷	死	傷	死			
			一					新	新	州
			一	四				計		
一	二			四	一			計	計	州
一	二		二	三				計		
		一	一		一			計	計	州
	三	一					二	計		
	三	三	一		一		二	計	計	州
一	五	三	三	二	一		二	計		





官公吏死傷者調

州別	台中州	死	勤務	先	官職	氏名
"	"	"	豊原郡山神元役場	先	庄長	張
"	"	"	"	助役	張	張
"	"	"	山埔公學校	訓導	張	張
"	"	"	"	"	張	張
"	"	"	大甲郡警察課	巡查	謝	謝
"	"	"	"	巡查	黃	黃
新竹州	"	"	竹南郡大埔公學校	製簿	饒	饒
"	"	"	苗栗郡鷲隆公學校	"	吳	吳
"	豊原	"	大湖郡卓蘭	公医	詹	詹
"	"	"	苗栗郡雞籠公學校	訓導	坂	坂

計	"	"	"	"	台中州	"	"	新竹州
死亡	"	"	"	重傷	死	"	"	輕傷
九	"	"	"	"	大甲郡清水街役場	新竹州	大湖郡獅潭	苗栗郡烏眉公學校
重傷五、	"	"	産	"	書記	州産	公匠	訓導
輕傷四、	莊	蔡	莊	蔡	張	山崎	吳	蔡
	天	鑑	銘	應	洲	太	行	國
	送	驢	錫	舟	泉	一	儒	良

建設公			物建			被管			種別					
地	学	場	使	街	池	共	雨	停		卸	河	水	水	路
地	学	場	使	街	池	共	雨	停	卸	河	水	水	路	管
五					=	-		-						
-		-			-									
五	五	-	-	=	-	=		-		=	五	-		
四	四	-	-	=	-	-		-	-	=	七	六	-	
五	五	=	=	=	=					六	=	五	四	
=	-	-		=	-			=		-	-	-	=	
=	-	四	五	六	七	=	九	=	-	=	四	三	-	五
		=	=		-	-	-			*	五			
		-								-	-			
=	四	=		-						-	五			
=	五	四	=	-	-	-	-			=	二			
=	-		-							-	=	六	九	八

官公衛其他、被害

計	華北	華中	物	
			他	物
一				
三	*	一		
一	〃			一
一	〃		二	一
三	〃	二		
五	〃	二		
六	〃	一		一
四	〃	一	二	一
一	〃	一		一
二	〃			
一	〃	一		
一	〃	一		一
一	〃	一		一
一	〃	一		一
一	〃	一		一

損害見込額

(單位圓)

種別	新竹州	台中州	計
家屋家財	六三三、三七七	七三、八一〇	一、四〇九、六八七
道路橋梁埤圳等	四六六、三四	七九、〇七	一、三、七三一
州ノ財産ニ屬スモノ	五、六六〇	一、七、七三〇	一、八、三九〇
市街ノ財産ニ屬スモノ	二四、一九〇	五、九七六	二、九、一六六
計	六、五五、五五一	八、四、六、三三〇	一、五、〇、〇〇〇

備考

鉄道、電信、電話、電気事業ノ被害ハ包含セズ

庫

庫

R36  
0922

軍務局

臺灣海軍第一二號

昭和十年四月三十日

第一課 局長

海軍次官 殿

酒井臺北在勤海軍武官

五月八日

臺灣中部<sup>ノ</sup>災ニ關スル件送付  
首題ニ關シ臺灣總督府警務局長ヨリ小官宛別紙ノ通  
(別紙添)

發送先 海軍次官

軍令部次長

馬要參謀長

五水戰司令部

三艦隊參謀長

海軍

(終)

軍務局  
10.5.8

(富井納)

(9. 12. 300.)



拜啓

今回ノ中部地方震災ニ際シ逸早ク出動セラレタル海軍無線電信隊及  
衛生隊ノ御活動ニ依リ災害地トノ通信聯絡及罹災者ノ救護ニ多大ノ  
便益ヲ與ヘラレ感謝ニ不堪厚ク御禮申上候貴部御關係各官ヘモ可然  
御鶴聲願上度不取敢右以書中感謝ノ意ヲ表シ度如斯御座候

四月三十日

敬具

警務局長 石垣 倉治

海軍武官殿

海軍

(富井納)

0974

水	20	石	丁
永			

海軍大臣殿

馬公要港第三三號一〇三

概覽

昭和十年五月二十日

副官

馬公要港部司令官大野寛

五月二十日提出

五月廿九日

軍務局

臺灣 水陸 救護報告

第一課 第二課 別室

人事局 軍需局 經理局

第一課長 第二課長 第三課長

第一課長 第二課長



人事局 10.6.3. 第一課

5.29.10

軍需 10.6.12 接受



# 臺灣震災報告

## 一、震災狀況

四月二十一日午前六時台灣中部地方ヲ中心トシ強度ノ地震アリ震源地ハ台中市東北方約三十料ノ地点ト稱セラルル震災地域ハ台中及新竹州下ニシテ被害狀況左ノ如ク海軍土地建造物ノ被害ナシ

### (一) 死傷者及家屋被害狀況

新竹州	死亡	一、三六八	員傷	四、五三四
	家屋全壞	二、三三三	半壞	一、九四五
台中州	死亡	一、八八一	員傷	七、四五九
	家屋全壞	五、五三二	半壞	八、七二九

### (二) 交通通信被害狀況

#### 山 鐵道

海岸線ハ竹南清水間不通ナリニモ二十一日午後二時開通セリ台中線ハ竹南豐原間今尚不通ニシテ復旧ニ約一ヶ月ヲ要スル模様ナリ

## (四) 通信

一時震災地域トノ通信不通トナレルモ二十一日午前十時頃ヨリ漸次復旧シ二十八日頃停滞信モ一掃シ平常状態ニ復帰セリ

## 二 當部ノ執リタル處置

(一) 二十一日夕刻台湾中部震災被害大ナリトノ報ニ接シ當部トシテハ機ヲ逸セズ兵力ヲ派遣シ之ガ救護ニ任ゼシムルニ決シ第三驅逐隊島風ニ救護隊及救護品ヲ搭載シ司令引率ノ下ニ二十二日午前七時馬公弁新竹州下通宵ニ急行セシメ被害最モ大ナル銅羅大湖苗栗方面ノ救護警衛ニ當ラシムルコトセリ

(二) 鳳山電信所ヨリハ別ニ山崎少佐ヲ指揮官トスル通信隊ヲ台中州廳ニ派遣シ鳳山電信所及派遣驅逐隊ト協カシ救護通信ニ任ゼシムル事トセリ

右通信隊ハ二十四日台中ヲ引揚ゲ交通至難ナル

新竹州下大湖ニ移動シ更ニ隊ヲ苗栗ニ分派シ第十六驅逐隊ヨリ派遣セル新竹通信隊ト協力シテ救護通信ニ當ラレメタリ

(三) 二十三日更ニ救護隊一隊ヲ編制シ増援ノ爲メ第三驅逐隊夕風ヲ派遣スルニ決シ正午馬公出港ニテ通宵ニ急行セシメ第三驅逐隊司令ノ指揮下ニ入ラレメタリ

(四) 各部ノ救護作業ハ順當ニ行ハレ人心ノ動搖モ概ネ安定シタルヲ以テ第三驅逐隊ハ二十五日午後十時通霄及開歸投風山電信所ヨリ派遣ノ通信隊ハ二十八日撤収歸所セシメタリ

(五) 右ノ外第十六驅逐隊ハ第三艦隊長官ノ命ヲ受ケ當部救護作業ニ協力シ二十三日馬公及台中州下大安及基隆方面ニ行動シ主トシテ台中北部ノ救護作業並新竹方面ノ通信連絡ニ任シ二十八日全部撤収セリ

三、救護狀況

別冊第三驅逐隊及鳳山電信所報告ノ通

馬公要港部附録

昭和十年五月

別冊風山電  
後送可致

一隊ヲ苗粟ニ分派シ第六  
通信隊ト協力シテ救護通

制シ増援ノ為第三驅逐  
十馬公出港ニテ通宵ニ急行  
揮下ニ入ラレメタリ

ニ行ハレ人心ノ動揺モ概ネ  
隊ハ二十五日午後十時通  
ヨリ派遣ノ通信隊ハ二十八

一艦隊長官ノ命ヲ受ケ當  
一三日馬公弁台中州下大安  
シテ台中北部ノ救護作業  
任シ二十八日全部撤収セリ

信所報告ノ通

馬公安港部附	昭和十年五月三十一日
別冊凡山電信所ノ分ハ 後送可致候	
8460	

## 四所見

(一) 地方醫療機關相當ニ活躍シ居タルモコレト協力救護品配給救護援助等ニ任ジ部外者及罹災民ヲ以テ海軍ニ對スル謝意敬意深徹セシメタル點ニ於テ形而上ノ効果特ニ大ナルモノアリト認ム

(二) 治安維持ニ關シテハ敏速ナル行動ニ依リ罹災地帝國軍艦ノ次女ヲ現シ毎夜探照燈ヲ点シテ上空ヲ照シ又警戒隊ヲ巡邏セシメ以テ人心安定ヲ圖リタルハ頗ル効果アリタルモノト認ム

又地方警察機關相當活躍シ在リシモ更ニ海軍部隊ノ到着ヲ見テ一層治安堵シ帝國領有以前前カカル震災ニ遭遇セバ須々匪賊ノ襲フ處トナシモ今ハ其ノ憂人ヲクナキノミカ醫療救恤盡ササル處トク人王ク皇恩ノ絶大ナルニ感激シアリ島民化育上効果大ナリシモノト認ム

見

昭和十年四月二十五日

新竹台中兩州震災救護報告

第三驅逐隊  
(島風)  
夕風

## 島風新竹台中兩州震災救護報告

## 一、命令

## 馬公要港部命令

新竹台中西州ノ震災ニ對シ各部ハ左ノ通り兵力ヲ派遣シ之ガ救護ニ任ズベシ

一、第三驅逐隊司令ハ島風ヲ率ヒ救護材料ヲ塔載シ午前七時出港新竹州沿岸ニ至リ鳳山無線電信所派遣ノ假設電信所ト連絡シ所要ニ應ジ衛生隊其他ヲ陸上ニ派遣シ救護ニ任ズベシ

二、鳳山無線電信所長ハ山崎少佐ノ率ユル無線電信隊ヲ台中又ハ其ノ附近適當ノ地點ニ派遣シ鳳山電信所及島風ト通信連絡ニ任ゼシムベシ  
波長、通信時間及呼出符號等ヲ定メ報告スルト共ニ關係各部ニ通報スベシ

三、要港部病院長ハ兵員ノ派遣及救護材料ノ供給ニ関シ驅逐隊司令ヲ

援助スベシ

二、準備事項

(一) 人員

救護任務ノ爲臨時島風ニ乗艦セル者左ノ如シ

人員	員數	派出元	託事
軍醫大尉	一	三 駝	以上ノ他工作部ヨリ寫眞 撮影技手一名乗艦ス
兵曹(掌電信)	一	汐 風	
水兵(掌電信)	六	ヨリ各二名 汐風 瀧風 夕風	
看護兵曹	三	ヨリ各一名 馬要 汐風 瀧風	
看護兵	二	馬 要	

(二) 物件



三、行動

四月二十一日 晴

二二〇〇馬公要港部命令接受 出勤準備

四月二十二日 晴

(備考) 右ノ他生糧品五日分ヲ塔載ス

品名	數量	塔載元	用途
醫療品	別表	要港部	救護
蠟燭	若干		
燐寸	若干		
乾麵麴	七箱	沙風灘風夕風ヨリ各一	陸上假設電信所設置
自轉車	一一		
丁M式移動無線電信機	三		

。七〇〇司令駆逐艦ヲ一時島風ニ変更シ馬公發

一二二〇通霄沖着

一三一〇救護隊出發 出發ニ際シ左ノ命令ヲ下ス

命令

一、島風ハ毎夜日没後三十分ヨリ二二〇〇迄探照灯ヲ以テ清水、豊原

大甲方面ノ上空ヲ移動照射セヨ

二、通霄ニ假設電信所ヲ設置スベシ

三、通霄以南清水大甲方面ヲ調査シ適宜處置スルト共ニ直接馬公要港

部ニ報告スルト共ニ本職ニ通報スベシ

四、本職救護隊ヲ引率シ夕刻銅羅着ノ予定

五、第二救護隊ハ救護糧食並醫藥品ノ半量（半量ハ救護隊携行）ヲ

電命ニヨリ速カニ送り得ル準備ヲナシ置ケ

(一) 救護隊ノ編制並ニ行動概要左ノ如シ

(イ) 編制

入	員	携帶物件	備考
指揮官	司令		工部部技手一名
指揮官附	島風通信士 軍醫長		寫真機携帶震災 状況撮影ノ多隨行
看護隊	四名	醫療品若干	
通信隊	六名	下ノ式電信機二基	
警衛隊	六名		

(ロ) 行動並ニ情況

一四〇〇通曾庄着附近一帶ニ被害僅少銅羅上ノ電話通ズルモ被害相當  
大死傷者多數ナル情報ヲ得

一四三〇銅羅ニ向テ通曾發(交通機内皆無、爲陸路徒歩)道路不良ナリ  
途中亀裂等ヲ認メズ烏眉坑被害少石油坑殆ト被害ナシ一個所約三ノ  
ヲ要スル岫アリ

## 一八三〇銅羅着

銅羅ノ狀況左ノ如シ

一、比較的新築ヲシキ警察分署、市場、庄役場、ハ無事ナルモ他ハ全戸倒壊修狀甚シ

二、全部貧弱ナル假小屋ヲ建テ道路空地ニ起臥ス

三、郵便局ハ全壊セシモ假小屋ニテ一般電信電話ヲ取扱フ尚警察ニ電話アリ

四、既ニ救護班ノ派遣アリ醫藥品豊富恙者時々來ル有様ナリ

五、糧食ハ苗粟ヨリ時々補給、不足ヲ認メズ

六、朝來相當ナル余震頻々タリ家屋ニ入ル者ナク自己家族ノ保護ニ汲々

トシテ壯丁中警備ニ任ズル者無ク数名ノ應援警官アルモ人心稍動搖、

風アリ

七、點燈ナク火災ヲ恐レ裸火ノ使用ヲ制止シ居ルヲ以テ市中暗黒ナリ

右ノ狀況ニ依リ銅羅警察ノ一室ニ假設電信所ヲ設置シニ十三日〇〇三〇島原

並ニ台中假設ト連絡ス

今夜兵員ノ一部ヲシテ市中ヲ警戒セシム

夜中余震三回アリシモ極メテ微弱ナリ

今夜通信當直員ノ外道路上ニ夜營ス

各地ニ於テ得タル情况次ノ如シ

地名	戸数	全壊	半壊	死者	重軽傷者	訃事
銅羅	一ニ〇〇	五〇〇	七〇〇	七九	九四	
高眉坑	二五〇	五	一五〇	一	ナシ	
通霄			<small>内地人家屋ヲ除キ死ト全部</small>	一	二〇	

(二) 島風駆逐艦長ノ行動並ニ調査事項左ノ如シ

一三三〇の艦發通霄警察ニ到リ通霄及ヒ全南部地方ノ情况ヲ調査シ一五〇の警察署濱武場ニ假設無線電信所ヲ設置シ島風ト連絡ヲ取り銅羅救護隊トハ警察電話ヲ連絡ヲ取ル一六〇の通霄ヲ視察一七一の汽車ニテ大甲ニ赴キ大甲郡守ノ案内

ニテ大甲ヨリ自動車ヲ清水ニ至リ清水街視察ノ上大甲郡役所ニテ大甲郡管内ノ  
 情况ヲ調査シニ〇四〇汽車ニテ通霄歸着  
 (イ)大甲郡守ニ就キ得タル情况左ノ如シ

地名	死者	傷者	全壊	半壊
龍井庄	一	五	一一	三三〇
大肚庄	〇	四	五九	二六六
梧槽庄	二四	四六	三九〇	四〇〇
大安庄	〇	一	三八	三〇六
沙鹿庄	三七	八九	三〇八	二三六
外埔庄	一一	三四	一三七	四〇
大甲街	一	二七	七四	四三四
清水街	二六七	三二二	一一八七	一三一〇

(四) 各地ニ於ケル視察情況左ノ如シ

一、通霄

全壊・家屋ハ極メテ少キモ其他ノモノハ半壊若クハ建直シテ要スルモノミニシテ目下其ノ整理作業ニ従事シツアリ。居住民ハ殆ド大部分屋外又ハ廣場ニ假小屋ヲ立テ居トリ糧食ハ充分又死傷者僅少ナルヲ以テ醫師アリシモ閑散ニシテ救護ノ要ナシト認メタリ電燈ハ未ダ點灯セザリシモ二十三日ニハ復舊ノ見込ナリ通信機関及交通機関復舊シ人心安定シ居レリ

二、大甲

通霄ト略々同様ノ情況ナリ

三、清水

郡役所學校等主ナル建物及内地人家屋ノ他殆ド全壊又ハ半壊シ死傷多数ナリシモ通信機関交通機関急速ニ復舊シ台中近キ馬台中ヨリ、救護隊並ニ警衛隊ニ依リ糧食潤澤ニシテ整理作業順調ニ進捗シツアリ既ニ五百坪ノ

避難民收容「バラック」ヲ建設シ略々完成シ更ニ三百坪ノ「バラック」建設ノ計画アリ  
 今ノ所爆破作業ニアラザレバ死體ヲ發掘シ得ザル箇所一部アルモ人心刺戟ヲ  
 考慮シ未ダ本作業ニ着手シアラズト云フ此ノ上海軍トシテ救護ノ要ナキモト  
 認メタリ

四月二十三日 半晴

〇七の雞隆方面ノ情報區々ニシテ信ヲ置ク能ハザルヲ以テ寫眞班ヲ從ヘ老雞隆  
 石圍塙方面視察ノ爲銅羅發

山崩レノ爲危険箇所二三箇所アリ且ツ河川徒歩ヲ要ス通路不良  
 〇八三の老雞隆着

老雞隆ノ状況左ノ如シ

一戸數約四十戸ノ小部落ニシテ漆會社ノ一部並ニ學校宿舍ヲ残シ他ハ全壊ノ死  
 者ノ發掘モ殆ド終了



二、住民整理作業ニ従事ス

三、食糧ハ銅羅ヨリ運搬シツツアリテ貯ニ不足ヲ認めズ

四、既ニ救護班ノ派遣アリ(醫師一、看護婦五)其ノ執務閑散ナリ

五、應援警官ノ派遣アリ人心安定セルヲ見ル

一〇〇〇 銅羅歸着

一、視察セル状況並ニ實地踏査セル新報記者並ニ警官ノ通知ニ依リ老雞隆、新

雞隆、石圍墻、大湖方面共ニ救護手配順調ニ進行中ニシテ當隊救護隊員

救援ノ要ナキヲ認め、救護員ノ分派ヲ取止メ醫療品ノ補給ニ止ム

二、當隊來着後人心著シク安堵ノ模様見エ住民各戸整理作業ニ従事スルヲ

見且憲兵ノ巡回アルト共ニ應援警官ノ往復頻繁ナリ

三、電灯線ノ修理着手奈夜ヨリ点灯可能ト稱ス

四、糧食配給順調ナリ

五、米ダハ<sup>ハ</sup>ラック<sup>ク</sup>ノ建設材料米着ニシテ降雨アル際ハ多少人心動揺スルカ如ク想像セラル

以上ノ情況ニ依リ最早当地方當隊駐屯ノ要ヲ認メザルモノト思考シ撤退ニ決ス

一四四〇 假設電信所ヲ撤シ公館ニ向フ交通路不良ニシテ自轉車ヲ通セズ斷崖ノ下降並ニ急流ノ徒涉二箇所アリ

一五三〇 公館着

公館ノ狀況

被害相當ニ大ナルモ苗栗州ノ交通路良好ナルト(現ニ東合自動車運行ス)苗栗ニ近キヲ以テ整理作業最モ迅速ニシテ慰問高官ノ往復頻繁住民極メテ平靜ナルヲ認ム

一五五〇 公館發苗栗街役場郡役所日石出張所ヲ訪問各狀況ヲ調査スルト

共ニ慰問シ後龍ヲ經テ一八一〇通霄着

一九一〇 司令歸艦

四月二十四日 晴

街庄別	死	重傷	軽傷	全壊	半壊
苗栗街	三二	五八	一八〇	四八一	四六五
頭屋庄	六二	六〇	七〇	六五六	二〇
公館庄	二四四	一三〇	一〇〇	一三二〇	九八〇
銅羅庄	三一四	四七九	二九四	九〇〇	六五〇
三又庄	八七	八〇	八五	五七〇	四六〇
苑裡庄	一三	七	一六	八一	三六〇
通霄庄	五	四	一一	四一	八八
四湖庄	一〇	七	九	一〇二	二一四

(1)

苗栗郡守ニ就キテ得タル情况左ノ如シ  
 〇五〇〇島風駆逐艦長ヲ指揮官トシ士官二軍醫官一看護兵三下士官兵  
 六ヨリ成ル救護隊一隊ヲ苗栗ニ派遣シ夕風ニテ運ベル醫藥品並ニ乾麵麩  
 十三個ヲ携行苗栗郡守ニ管下配給ヲ依頼スルト共ニ救護隊必要ノ有モヲ調査セシム

計	七六七	八二五	七六五	四〇五一	三二三七
---	-----	-----	-----	------	------

(四) 苗栗ニ於ケル視察情況左ノ如シ

苗栗街ニ於ケル被害ハ前項ノ如キモ陸軍救護班其他警察官壯丁團ノ

應援ニヨリ救護作業順調ニ進捗セリ交通通信機關ハ全部復舊セリ

台湾軍參謀ノ談ニ依レバ大湖ニ救護警衛隊三十四名駐屯セリト

大湖ヘノ道路破壊シ交通不便ノ爲糧食ハ擔送ノ已ムナキ狀況ナレバ

糧食ハ潤澤ナラザルガ如シサレド海軍トシテ該地ニ対シ救護警衛ノ

必要ナシト認メタリ

一五〇〇 烏風駆逐艦長ノ指揮セル救護隊並ニ第一救護隊歸艦

最早苗栗方面救護隊必要ナキヲ確認ス

爾後將校一名ヲ通霄陸上假設ニ常置シ電話ヲ以テ各地ヲ調査セ

シメ救護隊ハ艦内ニ在リテ待機セシム

四月二十五日 晴

通霄警察署ヨリ電話ニヨリ得タル情報別紙通信記事ノ如シ  
一四〇〇 假設電信所撤去  
二二〇〇 馬公ニ向ケ通霄沖發

四、通信ニ関スル事項

(一) 鋼索假設(TM) ↑ ↓ 島風 (後ハ九式短程三機)

連絡確保並ニ特用ヲ西女々之が原因ハ島風ニ於テ始メ

TMハ其合ナルタメハ九式短程三機送信機ヲ用ヒ同特

鳳電寫電ト連絡ヲ執リタル爲適切ナル應對出來

ナリシ爲ナリ

島風ニ於ル對寫電對鳳電、通信輻輳セホレハ

設置直後ヨリ連絡容易ト思ハル

尚相互TMニ依ル連絡ハ困難ナリ

(二) 通雷假設(TM) ↑ ↓ 島風(TM)

假設直直受了後直ニ連絡執リホリハ島風ニ於テ

始メ送信状態稍不良ノTMヲ使用セルタメ並ニ假

設使用電圧電圧降下セルタメナリ

T M 三テ連絡容易ナリ

(三) 新中 (T M) ↑ ↓ 島風 (送ハ九式短互換  
受ハ九式短受)

連絡不能ナリ原因ハ島風ニ於テハ鳳電馬電銅羅

假設トシ連絡ニ送信機ヲ使用セルタメ殆ド連絡予猶ナ

カリシタメナリ

尚台甲ノ感度不明シタメ連絡有無確メ得下リシモ

單獨受信ナラズ可能ナラント思ハル

但シ相互T M 三テハ連絡不可能ト思ハル

五、救護品配給ニ関スル事項

(一) 四月二十二日新羅龍老雞龍ニ對シテノ医療品ヲ配給セリ

木綿	一〇反	ヨードホルカセ	一反
ガーゼ	三五反	絆創膏	三卷
脱脂綿	一〇包	ヨートナシキ	一三〇〇包
綿花	五包	アルモール	一三〇〇包
硫酸紙	一〇〇枚	ケイロルカセ	一三〇〇包

(二) 四月二十四日苗栗郡管内對シテノ糧食及医療品ヲ配給セリ

(三) 乾麵麩 一三箱

(四) 医療品

精製綿	四〇包	ケイロルカセ	一〇本
精製カセ	一〇〇反	揚曹	五〇〇包
木綿	四〇反	普通綿	二〇包



6660

重炭酸曹達錠  
苦味ニンキ  
酒 精  
絆創膏  
パルミン紙

200個  
一本  
一本  
一缶  
四〇枚

酒 精  
ヨトニンキ  
沃 度  
ヨトカリ

一  
一  
一七五  
一本

## 所見

一、今回救護隊が稍困難ト思ハルル悪路ヲ長駆シ最大災害地タル銅羅ニ迅速ニ進出セシハ稍モスレハ流言ノ流布ヲ見人心ノ安定ヲスキ易キ災害地ニ於テ最モ効果アリト認メラレ駐屯地ハ勿論附近一帯ノ人士ヨリ齊シク感謝ノ辭ヲ浴ビタル事實ハ之ヲ立證シテ明カナリ、充分ノ目的ヲ達シタルモノト認ム

二、部隊ノ撤退ハ情況ヲ豫察シ適當ナル時機ヲ選フヲ要ス特ニ今回、如キ統制ナキ利己的藉民多キ地方ニ在リテハ徒ニ拱手專ラ他力ニ頼リ甦生スルノ風ヲ生ゼシムル弊アリ

三、救護作業等ハ動モスレバ深入過ギ易シコ、點常ニ考慮ヲ要ス